

# 令和5年度自己評価結果公表シート

作成 こでまり幼稚園

## 1、本園の教育目標

「つよいからだとゆたかな心」という大きな柱の中に、幼稚園では、たくさんの身近な人と関わりを持ち、自分の興味・関心を持ったことを、とことんまで遊び込むことが大切であるという考えのもと、やる気・・・たくさんの遊びを経験し、自分で考え創意工夫する中で、生きていく力を育てる。  
こん気・・・遊びや生活の中で、最後まであきらめずにがんばる力を育てる。  
元 気・・・あいさつをしっかりと、明るく元気で、自分のことは自分でする習慣を育てる  
の目標が掲げられている。

## 2、本年度、重点的に取り組む目標・計画

園庭環境を整える。

## 3、評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
幼稚園の教育課程の編成・実施に関して、教職員間の共通理解をはかる。	定期的な打ち合わせを設け、教職員間で協力しながら指導計画の編成を継続して行っている。
幼稚園の状況をふまえて、中・長期的なビジョンと計画を策定する。	本園がこれから長期的、中期的な計画を策定し、現実との差を短期的な計画の中で修正を行っている。
教育の質の向上のために、園内研修を充実させる。	教職員自らが自分の課題を見出し、目標を設定。 外部研修に頼らず知識・技術の向上をするための勉強を行う姿勢がみられる。 不適切な保育について考える機会を設けた。
保護者のニーズの把握につとめ、要望や苦情に適切な対応をはかる。	幼稚園評価などを通し、保護者からのご意見や社会的ニーズの把握に努め、適切な対応をはかることができるよう、職員会議等で対応の周知をはかり、実践できるようにしている。

#### 4、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

昨年度に続き、保護者・職員のアンケート調査を行った。保護者アンケートでは、昨年度から比べると、自由記述内容が保育内容にまで及んでいる傾向が出ていた。コロナが5類に変更になり、園生活がまた変更になってきた。毎日を安全に過ごすことは第一番目であり、年間行事のあり方について今年度は考える機会が増えた。今回のアンケートを通し、保護者の皆様から、保育内容について関心が寄せられているという再認識ができた。保護者の皆様からのアンケートを基に、教職員と話し合い、今後の課題を見出し、すぐ改善できることから始めております。

今年の自己評価を行った結果が次年度に反映できるよう、引き続き丁寧に務めていきたい。

#### 5、今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
安全管理	遊具やおもちゃ、教室内等の安全点検は引き続き行い、危険個所などを早期発見できるようにする。 園庭遊びなど、子どもが広いエリアで遊ぶ時は、教諭たちも広い視野を持って、子どもたちの安全を考えながら過ごせるように務める。
特別支援教育	現在、個別ノートでの記録や巡回指導を受けながら、よい良い子どもの育ちを考えた保育実践を行っている。 また、各所連携機関のとの連携がとれるように、打ち合わせなどを適宜行っている。担当職員のみならず、園全体で子ども達を保育できる仕組みを考える。 今後も引き続き、関係機関との連携を構築して行けるよう務めていく。
園に対する保護者の満足度の把握	自己評価でのアンケートで保護者からの様々なお意見をいただいたことを真摯に受け止め、改善できるところから着手する。 昨年度からの課題である内容については引き続き継続していく。 保育内容、職員対応についても、変化が問われていることを再確認し、いつでも、だれが見てもこちよ対応ができるように心掛ける。 情報発信について、進められているが、見る側の見やすさというところが課題に残っている。

## 6、学校関係者の評価

特に指摘すべき事項はなく、妥当であると認められる。

## 7、財務状況

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。

## 学校評価シート（学校関係者評価）

こでまり幼稚園  
学校関係者評価委員会

日 時： 令和6年3月21日（木）

15：45～17：00

場 所： 所沢市狭山ヶ丘1-3015

こでまり幼稚園 スカイルーム

出席者：評価委員（保護者1名）

（PT会長）

荻野 理子

評価委員（地域住民3名）

小野 葉子（民生委員）

上村 澄恵（みどり保育園園長）

由井 由美子（まるさわ学園 理事）

その他 2名

こでまり幼稚園

園長：澤田 一夫

合同会社クロッサンス

担当：前原 洋子

1. 自己評価で設定した目標・計画、評価項目の設定について  
自己評価という形式で令和3年より開始してきているが、  
幼稚園教職員の今まで培ってきた技術や考え方などの再確認  
及び現在の保育の在り方について考えるためには、今回の目標  
・計画及び評価項目の設定は適切であったと考える。
  
2. 評価結果の内容は適切であったか  
評価結果は、全体的な視点から見た状態が分かるものであった  
ため、今までの流れから今後の課題を見出すためには適切で  
あった。
  
3. 今後取り組むべき課題は適切に設定されているか  
施設としての安全点検等の持続を行い、利用している子どもの  
健やかな育ちと保護者に対する情報発信の充実、保護者への寄  
り添い等、現代の保育をとらえながらの課題としては適切で  
あると考える。
  
4. 今後取り組む課題は適切に行われているか  
令和5年度に見いだされた課題について、園教職員とともに  
考え、1つずつ課題達成にに向け確認をしながら行っている